

大分市では、長期休み明けの授業時数削減など、**児童生徒の負担軽減**を進めたことで、**不登校児童生徒数が9年ぶりに減少**し、更には**教員の負担も軽減**され、「**教員が生徒と向き合う時間の創出**」につながっています。

各学校の実情に応じた

「スロースタートプログラム」による負担軽減

【大分市内の小中学校の主な取組】

- 学期始めの1,2週間は授業時数の削減
6時間授業 ⇒ 5時間授業
※放課後に教育相談やSGE*等を実施
- 新入生の部活動の参加は5月から
※4月は1時間程度の練習参加や見学
- 5月の校内体育大会の競技数の削減
⇒ 午前中のみの実施、練習時間の短縮
- 夏休み明けの課題テストを廃止
- 学期始めの宿題提出期限の柔軟化

*SGE：構成的グループ・エンカウンター

大分市内の中学校における不登校生徒数

R5：1079人 ⇒ R6：981人

98人減少

保護者の声

時間的なゆとりが生まれ、子どもが不安を感じやすい学期始めの学校の様子をきちんと聞くことができました。

教員の声

放課後に教育相談や生徒とふれあうための時間が生まれ、家庭訪問や保護者面談ができました。

大分市教育委員会「OITA COCOLO PLAN」の策定

学びにアクセスできない児童生徒をゼロにすることを目指して

R7.4.Ver

令和5年度の大分市立小中学校の不登校児童生徒は、前年度より256人増加し1,665人となり、小学校は4.3人に一人、中学校は1.2人に一人が不登校の状態となっていたが、各学校の取組の結果、令和6年度は、小学校が57人増加し6.43人となり、3.9人に一人、中学校は98人減少し9.81人となり、1.3人に一人、合計41人減少し1,624人(暫定値)となった。また、学校内外の専門機関等と相談・指導を受けていない児童生徒は、令和4年度の不登校児童生徒数の約3割であったが、令和5年度には約2割に減少した。

安心して学べる 魅力ある学校づくり

- ★「スロースタートプログラム」による負担軽減
 - ・学期始めの授業時数の軽減や授業進度の工夫
 - ・学校行事の見直し
 - ・中1部活動入部時期等の変更 など

- ★「大分市不登校対応マニュアル」の改訂と教職員への周知徹底

- ★「学校いじめ防止基本方針」に基づいた、いじめへの対応の強化
- 小中学校間の系統性を踏まえた連携強化
- 「人間関係づくりプログラム」の計画的な実施

多様な学びの場の確保

- ★校内教育支援ルームの設置と活用
- ★スクールライフサポーターの配置拡充と小学校との連携による支援の充実
- ★ICTを活用した支援
 - ・一人1台端末を活用した学習支援(ロイロノート、デジタルドリル等)
 - ・オンライン授業の配信
 - ・メタバースを活用した支援
- 大分市教育センター内の教育支援教室(フレンドリールーム)やおでかけフレンドリールームの利用促進
- メンタルフレンド(大学生による訪問)の活用
- 「学びの多様化学校」に関する調査研究
- フリースクール等、民間施設との連携
- 地域の団体やボランティアによる支援

小さなSOSの早期発見と対応

- ★一人1台端末を活用した「心の健康観察」の調査研究
- ★大分市教育センター等、教育相談窓口の周知徹底
- 学級集団検査(hyper-QU)の結果を踏まえた児童生徒理解と教育相談
- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家による支援とアドバイス
- 子ども家庭支援センターや児童相談所等の関係機関との連携強化
- 校内不登校対策会議の定期的な開催
- 保護者への支援と連携

★…新規の取組 ●…継続した取組

子どもの声

4月の新しいクラスで、友達がいなくて不安だったけれど、放課後にいろんな人とゆっくり過ごせて、仲良くなれました。



★「うえるびーいんぐ」のバックナンバーはこちら
とくしまの学校における働き方改革HP

[URL] <https://hatarakikata.tokushima-ec.ed.jp/>

